



島唄と 人頭税

沖縄先島の

沖縄・宮古島、八重山の先島には島唄といわれる民謡が豊かだ。

農作業、祭り、人生儀礼と生活の中で島唄は生まれ育まれた。

同時に歌は為政者を揶揄したり、一揆を鼓舞したり、抵抗するときの象徴として世界どの国でも機能してきた歴史がある。

宮古島・八重山の島唄も例外ではない。

沖縄民謡で一番知られている八重山・竹富島の島唄『安里屋ユンタ』は島を支配する那覇王朝の役人を揶揄する唄だ。

悪名高い人頭税、琉球王国の支配体制、土地制度等を島唄を糸口にみていきたい。

薩摩藩ひいては幕藩体制さらに東アジアと東南アジアの接結点としての琉球弧を描ければと思う。

Speaker

稲垣一雄 (民俗・沖縄研究家)

Date

2016年2月27日(土) 午後2~4時

会費

講演：持てる者は持てるだけ(カンパ制) / 懇親会：2500円前後

場所

武蔵野市本町コミュニティセンター第2会議室(3F)
東京都武蔵野市吉祥寺本町1-22-2 / 吉祥寺北口(JR中央線・井の頭線) 徒歩3分 ※今後トカラ塾の会場は吉祥寺です。

参加連絡

050-7542-2018 (稲垣一雄)
info@tokarajuku.ne.jp
※懇親会のみ参加の方は上記アドレスにご連絡ください。

主催

文化結社トカラ塾 (<http://www.tokarajuku.sakura.ne.jp/>)

